



## Puppet Agent

この章は次のトピックで構成されています。

- [Puppet について](#) (1 ページ)
- [前提条件](#) (2 ページ)
- [Puppet エージェント NX-OS 環境](#) (2 ページ)
- [ciscopuppet モジュール](#) (2 ページ)

## Puppet について

Puppet Labs によって開発された Puppet ソフトウェア パッケージは、サーバやその他の技術情報を管理するためのオープンソースの自動化ツールセットです。Puppet ソフトウェアは、構成設定などのデバイス状態を適用することにより、サーバとリソースの管理を実現します。

Puppet コンポーネントには、管理対象デバイス（ノード）および Puppet Primary（サーバ）上で動作する Puppet エージェントが含まれます。通常、Puppet Primary は個別の専用サーバ上で実行され、複数のデバイスにサービスを提供します。Puppet エージェントの操作では、Puppet Primary に定期的に接続する必要があります。そして、Puppet Primary は構成マニフェストをコンパイルしてエージェントに送信します。エージェントは、ノードの現在の状態でこのマニフェストを調整し、相違点に基づいて状態を更新します。

Puppet マニフェストは、デバイスの状態を設定するためのプロパティ定義の集合です。これらのプロパティ状態の確認および設定の詳細は抽象化されているため、マニフェストは複数のオペレーティングシステムまたはプラットフォームで使用できます。マニフェストは、通常、構成時の設定を定義するために使用されますが、ソフトウェアパッケージのインストール、ファイルのコピー、およびサービスの開始にも使用できます。

詳細については、[Puppet Labs](#) を参照してください。

Puppet Labs	<a href="https://puppetlabs.com">https://puppetlabs.com</a>
Puppet Labs FAQ	<a href="https://puppet.com/blog/how-get-started-puppet-enterprise-faq/">https://puppet.com/blog/how-get-started-puppet-enterprise-faq/</a>
Puppet Labs ドキュメント	<a href="https://puppet.com/docs">https://puppet.com/docs</a>

## 前提条件

Puppet エージェントの前提条件は次のとおりです。

- 仮想サービスのインストールと Puppet Agent の展開に必要なディスク ストレージをデバイスで利用できる必要があります。
  - ブートフラッシュに最低 450MB の空きディスク容量。
- Puppet 4.0 以降の Puppet プライマリ サーバーが必要です。
- Puppet エージェント 4.0 以降が必要です。

## Puppet エージェント NX-OS 環境

Puppet Agent ソフトウェアは、ゲスト シェル (CentOS を実行する Linux コンテナ環境) のスイッチにインストールする必要があります。ゲスト シェルは、ホストから切り離された安全でオープンな実行環境を提供します。

Cisco NX-OS リリース 9.2 (1) 以降、Puppet Agent の Bash-shell (Cisco NX-OS の基盤となるネイティブ WindRiver Linux 環境) インストールはサポートされなくなりました。

次に、エージェント ソフトウェアのダウンロード、インストール、およびセットアップに関する情報を示します:

Puppet Agent: Cisco Nexus スイッチでのインストールとセットアップ (手動セットアップ)	<a href="https://github.com/cisco/cisco-network-puppet-module/blob/develop/docs/README-agent-install.md">https://github.com/cisco/cisco-network-puppet-module/blob/develop/docs/README-agent-install.md</a>
--	---

## ciscopuppet モジュール

ciscopuppet モジュールは、Cisco が開発したオープン ソース ソフトウェア モジュールです。これは、Puppet マニフェストの抽象技術情報構成と、Cisco NX-OS オペレーティング システムおよびプラットフォームの特定の実装の詳細との間のインターフェイスとなります。このモジュールは Puppet プライマリにインストールされ、Cisco Nexus スイッチでの Puppet エージェントの操作に必要です。

ciscopuppet モジュールは、Puppet Forge で利用できます。

ここでは、ciscopuppet モジュール インストール手順についての追加情報を提供します:

ciscopuppet モジュールの場所 (Puppet Forge)	<a href="#">Puppet Forge</a>
--	------------------------------

リソースの種類のカタログ	<a href="#">[Cisco Puppet 技術情報の参照先 (Cisco Puppet Resource Reference) ]</a>
ciscopuppet モジュール: 送信元コードリポジトリ	<a href="#">[Cisco Network Puppet モジュール (Cisco Network Puppet Module) ]</a>
ciscopuppet モジュール: セットアップと使用法	<a href="#">Cisco Puppet モジュール::README.md</a>
Puppet Labs: モジュールのインストール	<a href="https://puppet.com/docs/puppet/7/modules_installing.html">https://puppet.com/docs/puppet/7/modules_installing.html</a>
Puppet NX-OS マニフェストの例	<a href="#">[Cisco Network Puppet モジュールの例 (Cisco Network Puppet Module Examples) ]</a>
NX-OS デベロッパーのランディング ページ。	<a href="#">構成管理ツール</a>



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。